

斎藤忠雄先生への献辞

斎藤忠雄先生は本年3月31日をもって定年退職されます。先生は1947年に岩手県遠野市にお生まれになり、1966年3月に高校を卒業されるまで同地で過ごされました。その後、同4月に東北大学に入学、1970年3月に同校を卒業され、1976年3月には東北大学大学院経済学研究科博士課程を修了されました。そして、1976年から2年間東北大学で助手を務められたのち、1978年4月に広島修道大学商学部に専任講師として赴任され、翌年助教授に、1989年に教授に昇任されました。その後、1991年4月に三番目の赴任校として新潟大学に教授として着任され、現在に至っています。その間、経済学部の財政学担当教員および大学院現代社会文化研究科の主担当を務めてこられました。

研究においては、主要著作目録に示されるとおり、20歳台から30歳台にかけてはアメリカ財政史、イギリス財政史そして財政思想史に精力的に取り組み、その後、40歳台からは、広く諸外国の財政および社会保障のありかたと比較しつつ、また地方自治体の社会経済分析、企業のありかた、農業・地場産業の振興などの問題を視野に入れながら、日本の地方財政を含む財政問題と社会福祉の問題を考察して、多くの学術論文と著書を執筆されてきました。また実践的な観点から地方自治体（新潟県）の政策立案に関する様々な有益な提言をなされてきました。

教育においては、財政学を中心に学部学生に対する講義を担当してこられました。斎藤先生の演習は経済学部で最も人気の高いゼミの一つでした。また大学院でも社会人学生および7カ国からの留学生を指導し、多くの修士号と博士号の取得者を輩出されてきました。先生の穏やかな人柄と教育に対する熱心な姿勢は学生・教員の間でよく知られています。先生が指導された学生との交流は第一期生のときから続けられており、大学院出身者とは「現代経済を語る会」（毎月）を、また学部ゼミ・大学院出身者とは「新潟・六月の会」（毎年）を開かれてきました。ここにも先生の教育に対する熱心さをうかがい知ることができます。

このように先生は、歴史的・思想史的研究ならびに国際比較を踏まえて財政の現状分析に取り組み、日本の財政学研究に深く貢献され、また学部と大学院の教育を通じて多くの有能な人材を輩出して、本学の学生教育に大きく寄与してこられました。先生が本年度をもって退職されるのは誠に残念ですが、ここに先生の学問と教育における献身的な活動と校務における貢献をたたえ、感謝の献辞といたします。

2012年3月 吉日

新潟大学経済学会長

李 健 泳